

38期 第3回「郷土富士見検定」解説と探訪

ふじみ野・鶴瀬地区 ～ふじみ野から勝瀬・渡戸・上沢～

日時 平成27年10月29日(木) 9時30分～15時
集合場所 東武東上線ふじみの駅西口 9時30分集合

参加者 15名

第3回目の探訪はふじみ野駅で西口と東口のモニュメントが何を表現しているかの説明を受けてのスタートです。解説講座は“ピアザ☆ふじみ”2階の会議室で11時20分まで、じっくり聞くことができました。



12時から再び探訪が始まりました。

勝瀬原記念講演では富士見市勝瀬原特定土地地区画整理組合が創った、シンボルの塔の記念碑「絆」があり下側に富士山？を覗くことが出来る小さな窓があります。

隣接している通路には埋め込んであるタイルの地図があり、勝瀬原の旧道と旧字名が表記されています。



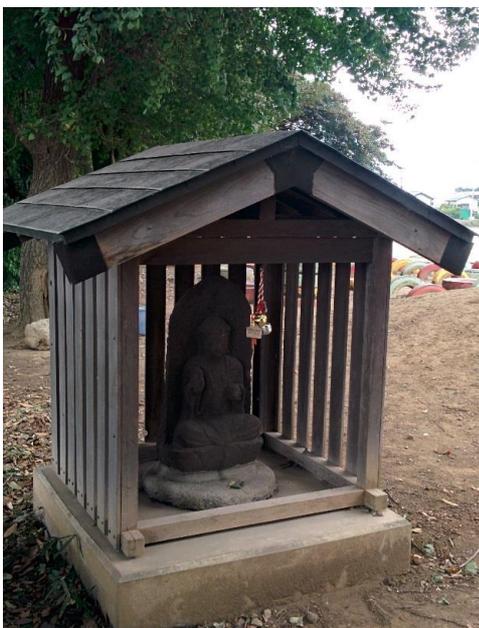
次は塩野家の長屋門を道路から確認し、鈴木家の敷神馬頭観音を観て、市指定文化財の大型板碑のある天台宗の護国寺へ、榛名神社に行く途中には、首を傾げた“道端の如意輪観音”があります。



榛名神社は農業の神様で、祭神は“埴山姫命”と“豊受姫命”女神

で、境内にはイチョウは樹齢4百年の大木があります。少し離れた所に、榛名神社の氏子による“お船山”の説明板が立てられています。

瀬小学校運動場の東南隅に目の病気を治してくれる石仏“谷田薬師如来”があります。



渡戸2丁目の共同墓地内の星野家の墓の一角にある医者坊主の墓



渡戸の庚申塔はコンクリートの枠で囲まれています。江戸時代は“道しるべ”にもなっていました。



上沢の薬師堂には 100 観音の石仏が 3 列に並んでいます。これは大曾根家の先祖から守り伝えられています。二体は壊れていて残念でした。



線路伝いに鶴瀬駅方面に向かい、昔、赤飯塚と呼ばれた上沢1丁目を通り、権平川に架かる橋台の上り線（レンガ造り）と下り線（コンクリート）の工事の違いを確認しました。鶴瀬駅では駐輪場の線路側にある「鶴瀬駅之碑」と「鶴瀬停車場記念碑」を観て、探訪を終わりました。



NPO法人 富士見市民大学

38期 第3回「郷土富士見検定」解説と探訪

ふじみ野・鶴瀬地区 ～ふじみ野から勝瀬・渡戸・上沢～

市内探訪会は検定問題集で取り上げた市内の主な公園、神社、仏閣、旧跡などを訪ねて、より理解を深めていただくものです。

日 時 平成27年10月29日(木) 9時30分～15時 (小雨決行)

集合場所 東武東上線ふじみ野駅西口駅前 9時30分集合

案内担当 富士見市資料館友の会 ふるさと探訪部会

行 程 ふじみ野駅西口モニュメント→東口モニュメント→ピアザ☆ふじみ
(解説講座・昼食) 勝瀬原記念公園 → 塩野家長屋門 → 安産祈願
の馬頭観音→ 護国寺→ 道辺の如意輪観音→ 榛名神社 → お舟山
→ 谷田薬師如来→ 観音坂→ 渡戸観音堂→ 医者坊主の墓 → 渡戸
の庚申塔→ (しつけの坂) → 関口不動堂→ 上沢薬師堂→ 赤飯塚→
鶴瀬駅東口 (解散)
約5.5 km

解説講座 10時10分～11時30分<ピアザ☆ふじみ2F>

昼 食 11時40分～12時20分<ピアザ☆ふじみ2F>

参加費 ①資料・保険料 100円 (受講生は免除)

その他 ①昼食、飲み物、雨具は各自ご用意ください。
②移動中は各自注意し、安全を心掛けてください。
③行程は変更する場合がありますので、予めご了承ください。

主催 NPO 法人富士見市民大学 郷土富士見検定事務局
(TEL) 049-251-1140 鶴瀬公民館内

〔鶴瀬地区〕（勝瀬・ふじみ野）

■勝瀬村から富士見村へ

『小田原衆所領役帳』、『新編武蔵風土記稿』に勝瀬孫六が勝瀬を領地していたことが記されている。さらに、勝瀬の地名が先か、勝瀬氏の名が先か、いずれにしても古くからの地名であると記されている。榛名神社の棟札には、文明4年（1477）4月10日再築入東郡勝瀬村とあり、少なくともこの地を領にしていた勝瀬氏はその名を称する以前にこの地があったと思われる。

地名の由来が土地の地形を含めた特徴からきたものとするれば、新河岸川に沿った地であることから、川の瀬からついた地名で「勝」は好字をあてはめたのではないかと考えられている。

・市の北西部に広がる勝瀬地区西部は勝瀬原と呼ばれ、開発前は武蔵野の面影を残す一面に畑がひろがる場所であった。勝瀬原地区は大井苗間地区との境になっている「さかい川」（現在の砂川堀第二都市下水路）が流れ、その流域には旧石器時代の約30,000年前の中澤遺跡をはじめ、東久保南・西ヶ原・外記塚遺跡など、縄文時代・奈良・平安時代・中世の時代に至る複合遺跡が発見されている。その他流域以外にも北東部の市街道・稲荷久保北（南）遺跡がある。

江戸時代始め頃の勝瀬村は、旗本の支配後、元禄10年（1697）以降は川越藩に組み入れられ、尾張藩の鷹場にも組み込まれたため、大井宿に人馬を供出する助郷とともに負担が課せられていた。当時の勝瀬原は入会地のため、周辺の各村の人々が薪等を集める場所であった。柳沢吉保が川越藩主になった元禄年間以降、勝瀬村や大久保村の村民によって開発（武蔵野開）が行われた。

- ・明治22年（1889）、勝瀬村・鶴馬村が合併し「鶴瀬村」となる。
- ・昭和31年（1956）、鶴瀬・南畑・水谷の三村が合併「富士見村」となる。
- ・平成22年（2010）、勝瀬の一部が町名地番変更により「ふじみ野東1・2・3・4丁目、ふじみ野西1・2・3・4丁目」となる。

以上

市民大学 郷土富士見検定解説講座

〔鶴瀬地区〕（鶴馬）

鶴馬村から富士見市へ

「鶴馬」の名は、永禄2年(1559)『小田原衆所領役帳』に「鶴間」と記載されている。現在の「鶴馬」の字があてられるようになったのは、正保3年(1646)に当時の旗本・宮崎備前守が検地の時、相模国(神奈川県)にも同じ鶴間村があることから、「鶴馬」に改めたと伝えられている。「鶴間」の地名の由来には諸説あり、そのひとつには水が流れている狭間を表しているという説、また、流れが滝のようになって落ちる手前の平坦な場所を表すという説もある。鶴馬は古くから七沢八寺の言葉で表されるように、小さな河川が武蔵野台地を浸食しながら流れる起伏にとんだ土地である。

明治4年(1871)、廃藩置県により、埼玉県・入間県が設置され、川越藩であった鶴馬村は「川越県」となり、間もなく「入間県」となる。

明治6年(1873) 入間・群馬両県を合併し、「熊谷県」となる。

明治9年(1876) 熊谷県を廃止し、旧入間県管轄分が「埼玉県」に編入された。

明治12年(1879) 埼玉県内に九郡が設けられ、入間郡となる。

明治22年(1889) 鶴馬村・勝瀬村が合併し、「鶴瀬村」となる。

昭和31年(1956) 鶴瀬・南畑・水谷の三村が合併「富士見村」となる。

昭和39年(1964) 町制施行「富士見町」となる。

昭和47年(1972) 市制施行「富士見市」となる。

昭和48年(1973) 8月 住居表示変更；鶴瀬東1・2丁目、鶴瀬西1・2・3丁目、上沢1・2丁目、鶴馬1・2・3丁目、関沢1・2丁目となる。

11月 住居表示変更；上沢3丁目、関沢3丁目、渡戸1・2・3丁目、羽沢1・2丁目、山室2丁目となる。

区画整理による町名変更；山室1丁目となる。

昭和49年(1974)、住居表示変更；諏訪1・2丁目、羽沢3丁目となる。

以上

第3回のふじみ野・鶴瀬地区

◆解説講座

ふじみ野駅（ふじみ野東1丁目）

勝瀬原(かっせつぱら)と呼ばれるこの地域は、昭和30年代後半から東武東上線沿線のベットタウンとして開発が盛んに行われてきましたが、勝瀬原は武蔵野の面影を残し、一面畑が広がる場所でした。

ふじみ野駅建設は、ニュータウン「アイムふじみ野」開発事業と一体となって進められ、平成5年(1993)11月15日に開業しました。急行列車が停車し、各駅停車との乗り換えが可能な2面4線ホーム構造で構内にはエレベーター、エスカレーターが設置されました。

駅は平成6年3月19日に開始された「アイムふじみ野」の入居に先立って開業されました。駅西口には東武ストアをキーテナントとする3階建ての駅ビルも建てられ、スーパー、クリニック、書店、銀行など13店舗が入居しました。

市内3駅の1日平均乗降客数を平成8年(1996)と平成22年とで比較すると、ふじみ野駅では約35,700人から64,904人で81.8%増加しています。鶴瀬駅では約50,900人から43,850人で13.9%、みずほ台駅では約44,100人から41,056人で7%、それぞれ減少しています。〔総合P55-94〕〔2015総合P55-35〕

ふじみ野駅西口モニュメント

東武東上線の「ふじみ野駅」は平成5年(1993)11月15日開設されました。平成26年(2014)現在1日の乗降客は約6万5千人で池袋起点より24.2kmです。東口駅前広場にはモニュメント「富士見夢の船」西口広場には「家族の肖像」があり、住みよい街にすることなどを暗示しています。〔総合P55-93〕〔2015総合P55-34〕

ふじみ野駅西口駅前のモニュメント、名称「家族の肖像」が設置されています。説明板に向かって左から母・子・父・孫・祖父で構成された家族の温かさ、安らぎを思い人々とともに富士見市に暮らす幸せをイメージしています。

〔総合P127-33〕〔2015総合P137-18〕

アイムふじみ野（ふじみ野西2丁目）

ふじみ野駅から北西に広がる旧字名南武蔵野の約6万8,000㎡（東京ドーム約1.5個分）の土地に建てられた総戸数1,028戸のハイグレード永住型マンション群です。住居棟は高層棟（11階～14階建て）が立ち並ぶ南、東、西の3棟と、超高層棟（32階建て）2棟、計5つのエリアに分けられています。南、東、西エリアの高さの異なる3棟の建物で街並みに変化を与え、超高層棟が街のシンボルとなる構図でそのコンセプトは「都市邸園」であるといいます。豊かな自然環境という面では建物を高層化し敷地の約80%をオープンスペースにすることでゆとりを実現、草木や花卉（かき）、街のシンボルとな

る高木を配して武蔵野の自然を満喫できるようにしました。

平成5年(1993)9月、第1期分譲(196戸)の販売開始、第1次～第4次分譲まで高倍率で即日完売となりました。平成6年(1994)6月に第2期分譲(198戸)、平成8年(1996)3月に第3次分譲(184戸)も即日完売し、その開発はその後にも続けられました。駅前の「都市邸園」アイムふじみ野というハイグレードなニュータウンの誕生は、東上線沿線のイメージアップにも貢献することになりました。

ふじみ野駅東口モニュメント

ふじみ野駅前には、勝瀬原区画整理事業のひとつで、東口と西口にまちづくりのシンボルとしてモニュメントがつけられた。東口駅前施設、名称「富士見夢の船」が設置されています。夢の船着場(駅)から大きな夢を抱き夢の船に乗って大海原に乗り出すことまた帰ってくることを、そして柱が積みあがった形は智恵を重ねて1つの課題を解決しながら住みよい街にすることなどを暗示し、富士山の溶岩や市の木「ケヤキ」が育つ姿をイメージしています。

〔総合 P127-32〕〔2015 総合 P137-17〕

ピアザ☆ふじみ(ふじみ野東1丁目)

多目的公共施設「ピアザ☆ふじみ」は平成27年5月7日にオープンしました。施設の愛称「ピアザ」の意味はイタリア語で広場を意味し、あらゆる世代が広場で交流することができる施設であって欲しいという願いを込めたものです。1階には、ふじみ野駅構内から「ふじみ野出張所」が移転し、喫茶店も開店しました。2階にはさまざまな利用が可能となる多目的ホール、3階はふじみ野児童館が開館しました。4階には食育の拠点となる食育推進室や会議・集会などで利用できる研修室があります。

勝瀬原記念公園

勝瀬原記念公園(ふじみ野東)は、平成19年(2007)7月に開設されました。ふじみ野地区を代表する公園で、いつでも緑や花が楽しめる公園として、中央には芝生広場があり、コミュニティー形成・防災の拠点としてのオープンスペースを確保しています。周囲には散歩や軽いジョギングが出来る園路(1周400m)が設置され、幼児から大人まで楽しめる遊具を配置しています。入口に建てられた富士山をイメージした竣工(しゅんこう)記念碑「絆」があります。〔総合 P27-44〕〔2015 総合 P27-21〕

ふじみ野東の勝瀬原記念公園入口には、富士山をイメージした竣工記念碑「絆」があります。絆には、「あの広大な畑地が今はビル群の林立する近代的な街へと様変わりした。…」の石碑が刻まれています。これは、富士見市勝瀬原特定土地区画整理組合が昭和61年(1986)1月から平成23年(2011)2月までの四半世紀を費やし完成させた事業の竣工を記念したものです。また、記念碑近くの通路には勝瀬原の旧道と旧字名(市街道・外記塚・稲荷久保・新田西・道京・苗間後など)を埋め込んだ地図が作られています。

〔総合 P29-47〕〔2015 総合 P29-24〕

塩野家長屋門

勝瀬村の名主を務めていた塩野家の長屋門は元禄年間（1688～1704）に火災により焼失したため、渋井村（現川越市）の薩摩屋より譲り受け移設したものとされています。当時の長屋門は藁葺きでしたが、現在は銅板葺きになっています。

江戸時代の面影を残す、長屋門は名主などの格式の高い家か寺院でないと建築が許可されなかったと言われていました。富士見市には、長屋門 9 棟が現存しています。勝瀬（屋敷廻り）の塩野家、諏訪（折戸）の加治家 3 棟、瑠璃光寺、鶴馬（御庵下）の横田家（昭和 48 年に改築）、針ヶ谷（南通り）の鈴木家（現、難波田城公園に移築復元）、上南畑（鼠橋）の金蔵院、東大久保（南畑界）の大澤家です。〔総合 P71-24〕〔2015 総合 P73-8〕

安産祈願の馬頭観音

鈴木家屋敷神の馬頭観世音 2 基が道路に面して並んでいます。「享保八年（1723）六月施主勝瀬村中、享保八年（1723）二月施主勝瀬村鈴木吉衛門」と刻まれています。こ利益は昼間、夜間いずれかの出産をお願いすれば希望が叶えられ、以前は多くの産婦が遠くからお参りにきて、安産を祈願したと伝えられています。

護国寺

龍王山薬王院護国寺という天台宗の寺院で、古谷本郷灌頂院（川越市）の末寺です。明治初期に火災にあい開基などは不詳ですが、寺名、石仏などから鎌倉時代と考えられています。本堂は明治 25 年（1892）に再建され、本堂天井板には寄進者の家紋が描かれています。

本尊は阿弥陀如来で、他に薬師如来が安置されています。

境内には、市指定文化財の大型板碑や文政 8 年（1825）の出羽三山ゆかりの石碑や妙音菩薩（弁財天）などの石仏があります。江戸時代には寺子屋が開かれ、明治初年には駒林村（現ふじみ野市）と共同の勝瀬学校となりました。

道端の如意輪観音

榛名神社参道近くの一角に肩膝を立てて座る如意輪観音が鎮座しています。昔から近くの畠の中に置かれていましたが、ある夜、ここ島田家先代の夢枕に観音さまが立たれたので、昭和 18 年～19 年（1943～44）の耕地整理のとき、こちらの座敷に移し、毎日お詣りをするようになったといます。銘文には「元禄二年（1689）己巳（つちのこのみ天口月十八日 奉造立 日待供養為二世安楽也）」などが読みとれます。如意輪観音は意のごとく人々の苦を救い願いを叶える観音さまで広く人々に崇拝され、日待信仰の本尊ともなり、また、産婦の守り神として信仰されました。

榛名神社、お舟山

勝瀬の鎮守榛名神社は明治初年までは神仏混淆のため神社と言わず、日本藤島榛名満行大権現といって、群馬の榛名神社とは関係が無いと言われていました。創建は不明ですが、祭神は土の祖神である埴山姫命と、伊勢の外宮に祀られている

五穀豊穰の神、豊受姫命の二柱の女神で、ともに農業の神です。このような神社は近隣にも例がなく、広く稲作農家の信仰を得て、ひいては雨乞いの祈願所となったようです。霊験については「富士見の伝説、むかしばなし」に、雨乞いをすれば必ず降ったと記載されています。〔総合 P99-77〕〔2015 総合 P103-13〕

勝瀬の榛名神社境内に市指定天然記念物の銀杏（イチョウ）があります。樹齢約 400 年・樹高約 20m・幹周約 4.7m です。銀杏には雄木と雌木があり、雌木のみにも果実を付け「ぎんなん」と呼び 11 月頃熟成し落下します。食用として好まれるが、食べ過ぎると（特に幼児）中毒になることがあります。昔から、銀杏には気根と呼ばれる垂れ下がった乳房状の突起が生じ雌木（めぎ）に祈願（きがん）すると乳の出が良くなると伝えられています。〔総合 P5-4〕〔2015 総合 P5-4〕

勝瀬の榛名神社は、祭神を「埴山姫命（はにやまひめのみこと）、豊受姫命（とようけひめのみこと）」の女神で「はんなさま」と呼び親しまれています。農業神として祀られ、4 月 10 日の祭礼日は、お囃子（はやし）が奉納され、植木市などが立ちます。境内には樹木も多く、イチョウの大木は樹齢 400 年を超すとされ、市指定天然記念物になっています。当社には創立に関わる「お舟山伝説」があります。大昔、榛名神社一帯が海であった頃、榛名大権現・薬師如来・貝塚稲荷の三方が鉄の舟に乗っていたところ、運悪く舟が沈没し、貝塚稲荷は貝塚山に、薬師如来は西の方に、榛名大権現は大きな藤の木につかまり上陸し、現在の社に鎮座したといわれています。舟が沈没したところは「お舟山」といわれ、藤の木のあったところを藤島と呼ばれています。

〔総合 P97-73〕〔2015 総合 P101-9〕

神社境内には、享和 2 年（1802）の「船山弁財天」オトウカ山より移された寛政 4 年（1792）の「富士浅間大神」、寛政 6 年（1794）の「藤塚神社」、稲荷、巖島、疱瘡神社などが合祀され、その他立ち姿の狛犬、力石などがあります。

谷田薬師如来

勝瀬小学校運動場の東南隅に、お舟山伝説の薬師如来が鎮座しています。寛文 6 年（1666）に再建された石仏です。薬師如来の石仏は市内唯一のもので、昔から眼病に効く石仏として信仰を集めたといわれています。

勝瀬の榛名神社にまつわる伝説に「御水足池（おみたらしいけ）伝説」があります。水不足、干魃（かんばつ）には、雨乞いとして、御水足池（今は埋めたてられた）より水を汲み、筒、瓶などに入れて神主に祈願してもらい、部落に帰ってこの水をまき、祈ると必ず雨が降ると言われました。

また、この池の水を使っている田んぼのタニシを食べたり、お舟山へ石を投げ込み「カーン」という音を聞くと目を患い失明するといわれていました。そのような時は、お舟山の西方（勝瀬小校庭片角）に鎮座する谷田薬師如来に謝罪してお助けを乞えば、必ず直してくれると伝えられ、眼病の参拝者が多かったといえます。〔第二集 P21-14〕

観音坂

渡戸観音堂から勝瀬方面に至る坂で「観音坂」「お観音の坂」と呼ばれています。この坂は昭和7年から8年（1931～33）にかけて道路改修工事が行われました。当時、鶴瀬村青年団の勤労奉仕があったといわれ、坂の傍に観音坂の碑が立っています。

渡戸観音堂

堂の創立は不詳ですが、文化7年（1810）本堂新築上棟が行われた記録があります。堂内には、その後文政8年（1825）に作られた「須彌壇（しゅみだん）」があります。本尊になっている寛文4年（1664）甲辰（きのえたつ）正月18日と刻まれた像は市内最古といわれています。

石仏像は、元渡戸にあって明治8年（1875）に廃寺となった光明寺（天台宗）のものが移され、併せて光明寺の本尊阿弥陀如来像も観音堂に移されたと考えられています。

医者坊主の墓

渡戸2丁目の共同墓地内に、元禄11年（1698）に亡くなった先達星野平太夫の墓（無縫塔・卵塔）があります。星野平太夫は出羽三山（湯殿山・月山・羽黒山）に修行した行者（修験者・山伏）で薬草、薬石に通じ、「諸病平癒」（しょびょうへいゆ）など祈願を行っていたところから「医者坊主」と呼ばれ、庶民の心のよりどころとなりました。墓には「遠山晃海信士・元禄十一年戊寅年・二月廿二日俗名平太夫」とあり、これが「医者坊主の墓」といわれています。平太夫は死期が近くなった時に、村人に対し「我が死した後、願い事がおきたならば墓前に酒を供えよ、必ずや聞きとどけん」と言い残したと伝えられています。〔総合 P87-55〕〔2015 総合 P91-3〕

渡戸の庚申塔

上福岡、大井苗間（現ふじみ野市）から鶴瀬、みずほ台方面へ向かう江戸道と関口不動堂から渡戸観音堂へ向かう道の分岐点でコンクリートの石祠の中に寛政4年（1792）造立の青面金剛像を浮き彫りにした庚申塔があります。

庚申塔には「是より右江戸道、入間郡鶴馬村領主渡戸中」と刻まれ、道しるべにもなっています。青面金剛とは顔の色が青い金剛童子（仏教の護法神）で病魔、病鬼を払い除き、六臂三眼（ろっぴさんがん）の忿怒相をし、庚申会の本尊として祀られました。

（しつけの坂）

江戸道の上福岡、大井苗間から砂川堀の栄橋を渡り、渡戸2,3丁目境の上り坂の渡戸の庚申塔に至る坂を「しつけの坂」と呼ばれていました。

しつけ（仕付け）とは、田植、植つけの意で坂下には湿地や水田が広がり南畑方面から田植に行くときに通る坂であったことから、いつしか「しつけの坂」と言われるようになったといえます。

関口不動堂

渡戸3丁目にある関口不動堂は「不動さん」「成田さん」などと呼ばれています。堂は羽沢の関口本家が信仰していた不動尊を昭和10年(1935)に、ここに移して堂を新築したのが始まりと伝えられています。関口家は成田山詣での先達を務め、依頼を受ければ「お祓い」の行事も行っていました。堂の外には不動のシンボル「不動剣」が建立され、参道には「天狗」、舟形光背の「阿弥陀如来立像」などの石造物があります。

上沢薬師堂

上沢の薬師堂(上沢2丁目)の境内に「上沢の百観音」ともいわれる百体の観音像が並んでいます。鶴馬村上沢の組頭(くみがしら)であった大曾根家の祖先が、寛政10年(1798)頃から文久2年(1862)の63年間、親・子・孫の三代にわたり、「西国33か所」「坂東33か所」「秩父34か所」の百か所の札所(霊場)を巡礼し、三代目で全てを参拝しました。農閑期を利用して長い年月をかけて巡礼し、その徳を多くの人々に分け与えるために、大曾根氏の子孫が観音石仏の建立を計画し、建設資金は近隣の村人などの寄進によって行い、明治2年(1869)に建立し終わると石碑に記されています。

[総合 P89-57] [2015 総合 P93-5]

赤飯塚

現在の上沢1丁目あたりが、もと「赤飯塚」(せきはんづか)と呼ばれていた頃は、雑木林の茂る武蔵野の一角で、東には権平川が流れ起伏の多い地でもあったといわれます。こもり茂った丘状の林の中にひと群れのオトウカ(キツネ)がすんでおり、食糧が乏しくなると付近の畑が荒らされ、貯えた物もいたずらされました。困った農家の主人が赤飯をオトウカの住む林に持って行き、荒らさないように話かけたところ、その後、作物は荒らされなくなったといえます。人々はこの地を「赤飯塚」と呼び、この地名を残し長く語り伝えたといえます。「赤飯塚」の地名は、元禄12年(1699)の検地帳に「せきはん塚」とあります。[総合 P89-59] [2015 総合 P93-7]

(権平川橋台)

東上線は、昭和29年(1954)に志木～川越間が複線化されました。権平川に架かる「権平川橋台」は単線時代からある上り線側はレンガ造りで、下り線側はコンクリート製です。レンガの積み方は堅実で廃材の少ないイギリス積みで、長面の段と短面の段が交互に積まれています。富士見市にある橋台は、他に富士見江川橋台(関沢1丁目)、別所橋台(水子)があります。

鶴瀬駅東口(解散)

東武東上線の「鶴瀬駅」は大正3年(1914)5月1日開設、平成26年(2014)現在1日の乗降客は約4万4千人で池袋起点より22kmです。「鶴瀬駅之碑」と「鶴瀬停車場記念碑」が鶴瀬駅ホームの上り線路脇(川越より)に設置されています。西口駅前には富士見市の花である藤棚があります。[総合 P53-91] [2015 総合 P53-32]